

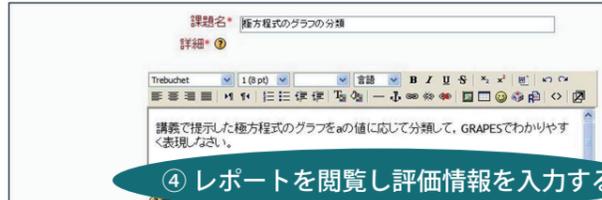
事例4 レポート提出（課題のアップロード）

情報提供：コンピューター基礎 理数科学教育専攻 数学教育分野担当 宮崎樹夫

レポートとしてまとめたファイルをアップロードして提出する

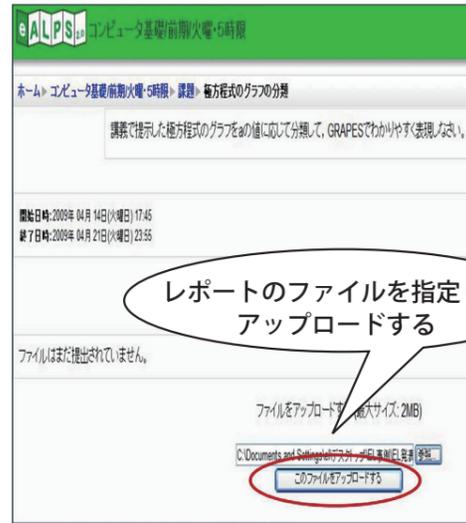
レポート提出方法には、情報の共有が可能な「掲示板機能」を使う場合と、レポート専用の「課題機能」を使って提出する方法があります。

① 課題のタイトル・内容や提出期限を伝える

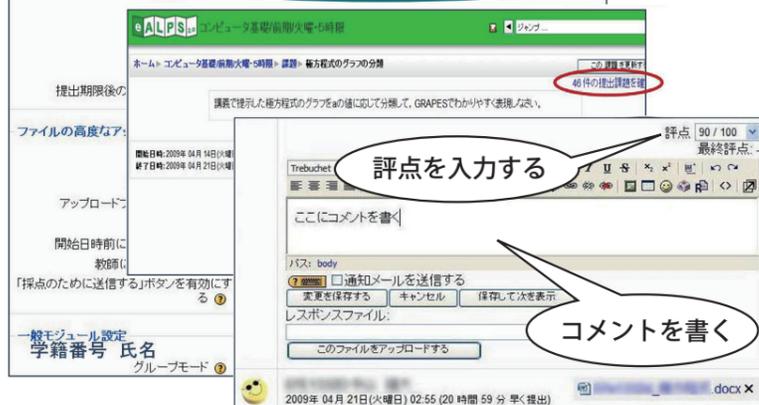


② 課題の内容を理解する

③ レポートを作成しファイルをアップロードする



④ レポートを閲覧し評価情報を入力する



interview レポートや課題の管理・評価が簡単に

どのような授業で利用していますか？

講義中、小中学校の授業の様子をビデオで見てもらうことが多くあります。今まではプロジェクターでビデオを投影していましたが、見ている学生と見ていない学生の差が大きく、その投影されたビデオ内容に関する問題を試験に出すことができませんでした。しかし、eALPS2.0にビデオを置いてもらえるようになったことにより、学生は講義ではもちろんのこと、自宅でもいつでもどこでも、講義内容に関する映像をみることができるようになり、ビデオの内容をレポートとして課すとともに、単位認定試験にも出題できるようになりました。

eALPS2.0 でよく使う機能はなんですか？

一番良く使うのは、学生にレポートを提出してもらう機能です。従来は紙媒体でしたので、学生全員のレポートがたまると大変な量になってしまいましたが、今では研究室でも自宅でもレポートの中身を確認することができますのでとても助かっています。

具体的な効果を教えてください。

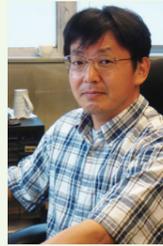
提出されたレポートをファイルとして管理できますので、ファイル名の付け方を適切に指示しておく、学生の名前や学籍番号で検索してレポートをみることができ、提出していない学生も見つけることができます。また、講義では主にパワーポイントを使用しており、こちらで資料をたくさん印刷しておかなく

てはなりません。しかし、今では、事前に配付資料をアップロードしておく、当日の講義までに、学生が各自で印刷し持参することになっています。また、配布資料はこちらで印刷しても白黒で物足りなかったのですが、学生の多くはカラーで資料を印刷して持参し授業を聞いています。

最後に一言お願い致します。

私のように、ビデオを講義のコンテンツにしたい先生でしたら、そのビデオをeALPS2.0に置いてもらうことによって講義を充実することができるのではないのでしょうか。もちろんファイルサイズに制限があるとは思いますが、まずは各部局のサポートに相談されてみてはいかがでしょうか。ただ、ビデオ教材で困った点は、NHKの番組を教材として置くことが許されなかったこと。問い合わせたのですが著作権上、難しいということです。このような外部に著作権のあるコンテンツをeALPS2.0で利用できるようになると講義を一層充実したものにできるように感じます。

最後に、eALPS2.0のことについてメールで担当の方に問い合わせると、即座に対応して下さるサポートのおかげで私のような者でもeALPS2.0の恩恵にあずかることができ大変助かっています。今後もサポートをお願い致します。



みやざき みきお
宮崎 樹夫

事例の詳細に関するお問い合わせ

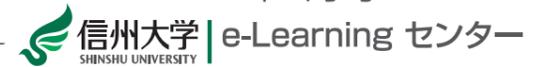
本号で紹介した事例につきまして、さらに具体的にお知りになりたい場合は、ICT活用支援部門までお問い合わせください。 ■e-mail: eduel-sp@certms.shinshu-u.ac.jp ■tel: 026-237-6126



ICT活用支援部門
メディアコーディネーター

e-Learning Newsletter

2010年9月号 vol.2



今号では、eALPS2.0を実際に授業で使用している教育学部の事例をご紹介します。

特集 eALPS2.0 活用実践事例

教育学部では、主に対面の授業をよりよいものにするためeALPS2.0を取り入れています。eALPS2.0には様々な機能がありますが、それをすべて使いこなすことは重要ではありません。また、簡単に使える機能は効果が薄く、より複雑で準備が大変な機能は効果が大きいということでもありません。



本号で紹介させていただく事例を通して、それぞれの対面授業の目的に応じ、eALPS2.0の機能の一部を使うことで授業効果があがることを見ていただけたらと思います。これからeALPS2.0を始めようとする方、また、すでに使用している先生方にも「そういうやり方があるのか、こんな効果があるのか」といった発見があると思います。学生のためにどのような使い方をするのか参考になるとと思います。

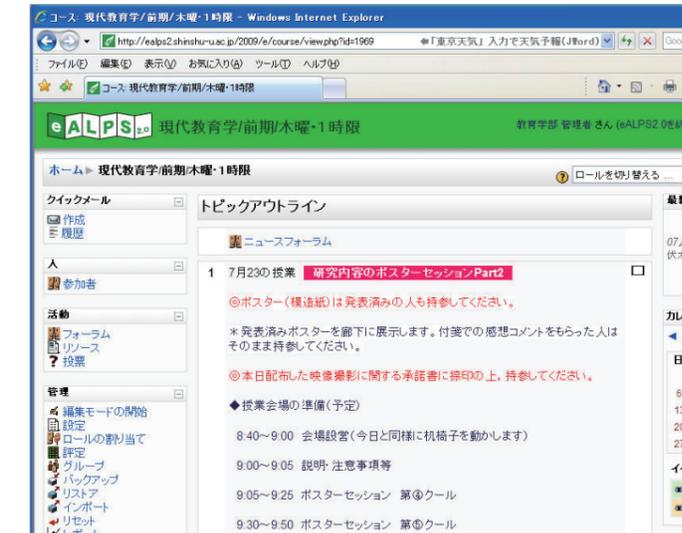
ICT活用支援部門長 東原 義訓 (ひがしばら よしのり)

事例1 お知らせ（表示機能）

情報提供：現代教育学担当 東原義訓・伏木久始

教員からの連絡事項を Web ページで常に見られる

授業内容、準備物、休講など、学生への連絡事項を、学内のほか、自宅からでも、出張先からでも、簡単に入力して、学生に伝えることができます。



授業内容や休講等の連絡事項を書き込む

9 4月16日(東原)

- ◆各自コンピュータを持参してください。
- 条件
- ・無線LANに接続できるもの
- ・十分充電しておくこと(コンセント不足のため)

10 4月9日(東原)

- 掲示板の練習(自己紹介と返信)
- ICT活用指導力自己評価(内容は次回)
- 【宿題】
- 掲示板のとなりの人からの返信に、さらに返信する。
- 掲示板の練習
- ICT活用指導力

eALPS2.0 説明会を全学部で随時開始します!

機能の紹介などを行いますので、是非ご参加ください!

- 繊維学部：9月28日 13:00～ 32番講義室
- 農学部：9月29日 13:00～ PC教室
- 松本、若里、西長野キャンパスは調整中

e-Learning センター HP を開設しました!

e-learning センター HP を開設しました。eALPS2.0の機能紹介やQ&Aも掲載していますので、ご覧ください。

URL <http://elearning.shinshu-u.ac.jp/>



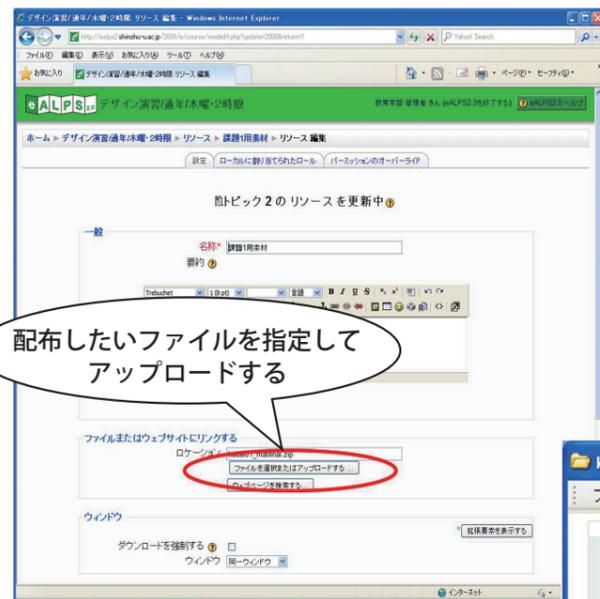
事例2 教材の配布 (ファイルのダウンロード)

情報提供：デザイン演習 芸術教育専攻 美術教育分野担当 蛭田直

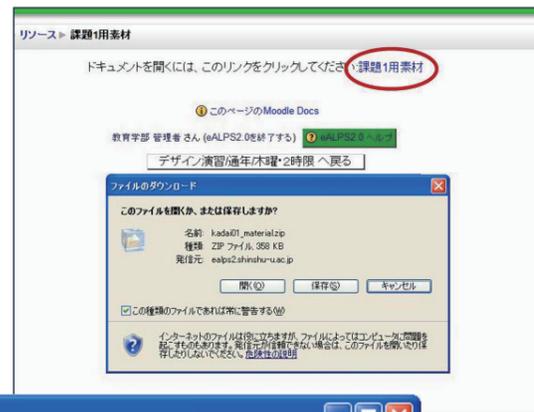
教員が用意した教材・資料のファイルをダウンロードできる

アップロード機能を用いれば、授業用資料を印刷して配布する手間が省けます。学生はカラー印刷したり、ファイルとして自由に管理したりできます。

① 教材や資料をアップロードする



② 教材や資料をダウンロードする



interview 準備の効率化でより発展した講義につながる

どのような授業で利用していますか？

デザインのコンピュータ・グラフィックスの基礎学習に使用しています。グラフィックを扱うアプリケーション・ソフトウェアを使用する際に、学生はこちらで用意した素材を使って作品を制作していくという流れです。以前はUSBメモリとかCDに素材となる画像を焼いて、学生に回してもらうという事前準備が必要でしたが時間がかかっていました。eALPS2.0を使用することであらかじめデータが用意できるので、学生に一斉ダウンロードしてもらうことで、迅速に準備ができるようになっています。

具体的な効果を教えてください。

学生の効果としては、やはり見本の画像を手元に置いて見れるというのがメリットです。見本の画像がどのように創られているかというデータで作り方も見ることができるので、制作において一番効果が大きいです。創った画像を評価するのも、再びeALPS2.0にアップロードして提出してもらうという形を

取っています。学生同士も自分たちの創った作品を見あうことができるなど、お互い刺激しあう環境になっているのではないかと思います。

e-Learningの利点は？

これからコンピュータを使用するという事は必須になってきます。そうしたなかで、いかに効率よくコンピュータを使用した講義を行っていくかといったときに、準備の部分や後の評価など、教員側で時間がかかってしまったり負担が多くなってしまっていることが多いと思います。しかしeALPS2.0のようなシステムが用意されていることで、とても負担が軽く、より講義を発展させていくことにつながると思います。



ひるた 直 蛭田直

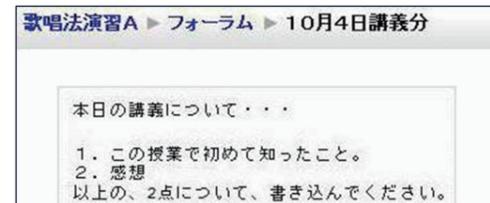
事例3 感想・意見の提出 (掲示板)

情報提供：歌唱法演習 A 芸術教育専攻 音楽教育分野担当 池田京子

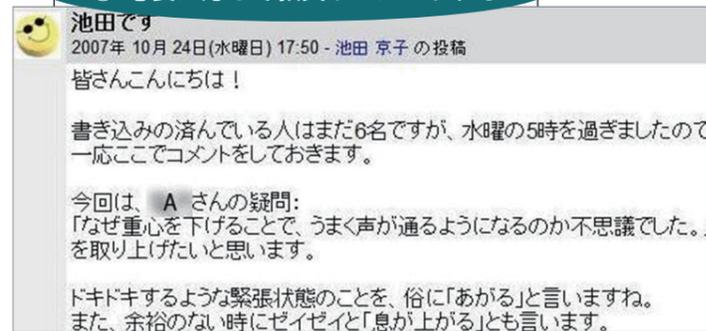
授業後の書き込みで、教員と学生のコミュニケーションを密にする

掲示板を用意し、情報交換するテーマを伝えるだけで、学生は自分の考えを掲示し、他の学生や教員と情報交換できます。

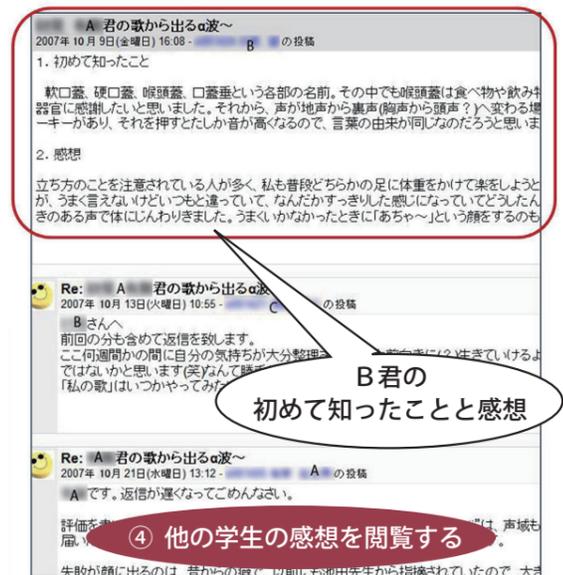
① 毎回の掲示板を用意し入力の指示をする



③ 必要に応じて教員がコメントする



② 初めて知ったことと感想を書き込む



④ 他の学生の感想を閲覧する

interview 学生同士が触発し合い、向上心が生まれる

どのような授業で利用していますか？

音楽の声楽実技レッスン (歌唱法演習・独唱法などの授業) でeALPS2.0を使わせていただいています。最初は実技レッスンでこのシステムが利用できるのか大変疑問に思っていました。しかし、「この授業で初めて知ったこと」が第一項目、第二項目に「今日の授業の感想」それを書き込むだけの単純な使い方で使用しましたが、思ってもみないような効果を得ているように思います。

具体的な効果を教えてください。

実技系ですので、ボールを投げるようにとか、声を前に当てましょう、という感覚的な表現というのがどうしても多いのですが、それを学生がどのようにとらえたか、間違っていないだろうか、実際に自分で言葉にしてみることで、誤解したまま過ぎてしまうかもしれないことを確認できたり、あるいは少し補ったりというフィードバックができる、それから友達のレッスン風景を詳細に見ていて、自分自身では気がつかないようなことを指摘しあったりお互いに励ましあったりしている…そうしたところで非常に効果があると思います。そして、学生たちが授業中にたくさんメモを取るようになりました。これによって、なんとなく分かっていたことを実際に言葉にする事も学生にとっては大きなことだったと思います。

また、書き込みの意見について授業中に触れるということも非常に効果があります。「○○さんがこういう書き込みをしていたけれどどうだろう」とか「こういう表現はこういう誤解を招かないだろうか」といった意見交換を翌週の授業中に取り上げることがありました。加えて、私が授業中にちょっとした間違い

た表現をしたことなども次の授業まで一週間放っておくことなくすぐに私から訂正の書き込みをすることができる、そうしたことも効果のひとつかと思えます。

大変なところありますか？

毎週学生の全員の書き込みを読み、そしてそれに対してコメントを書き込むのは結構大変な作業でしたが、やっぱり効果があると思うと私自身も励まされて頑張ることができました。

掲示板で注意すべき点はどこですか？

放っておくと、学生がインターネット上の書き込みのようにちょっと望ましくない方向に走ってしまう危険性も感じました。ていねいに学生の書き込みを読み、それに対して返信をする、そうした細やかな指導が大切だというふうに感じています。

最後に一言お願い致します。

私はこのe-learningを使うということに対しては敷居が高いという思いがあったんですけども、最初に「この授業の感想」を書いてもらうだけでも違うと思います。それから「この授業で初めて知ったこと」というようなちょっとしたヒントを学生に与えると、学生の方でこの書き込みの使い方をより効果的にしていってくれるという例もあります。

まずは単純な使い方でもいいですので使ってみることをお勧めします。思わぬ効果がそれぞれの分野であるのではないのでしょうか。



いけだ 京子 池田京子